

平成30年6月15日現在

機関番号：13103

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K17340

研究課題名(和文) 香港のカリキュラム改革における校本課程開発と校内の研究開発組織の実態に関する研究

研究課題名(英文) A study of the school based curriculum development and its organization amid curriculum reforms in Hong Kong

研究代表者

野澤 有希 (Nozawa, Yuki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：70749580

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果としては、
1. 香港の小学校における学校を基盤に置くカリキュラム開発SBCD(School-Based Curriculum Development)の政策とカリキュラム開発の現状を明らかにした。2. カリキュラム開発における校長、課程主任のリーダーシップと役割を明らかにした。また、教員の協働体制、評価システム、カリキュラムマネジメントのプロセスを明らかにした。3. 香港の総合領域「常識科」の内容とそのカリキュラム開発のプロセスを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Research findings include 3 areas:
1. Policies and curriculum development in Hong Kong primary schools: descriptions and analysis. 2. The focus is on the leadership styles of principals and curriculum leaders in schools. The analysis will emphasize the organization, evaluation system, and the implementation. 3. A detailed analysis will be on the development and improvement measures on the school subject "general studies", as a integrated study in primary schools.

研究分野：カリキュラム

キーワード：カリキュラム開発 カリキュラムマネジメント

1. 研究開始当初の背景

筆者は 2011 年から香港のカリキュラム改革の政策と校本課程開発 SBCD (School-Based Curriculum Development) の資料を収集し、分析した。その研究成果をまとめた論文は 2014 年 3 月の日本カリキュラム学会の学会誌に掲載された。しかし、まだ以下の課題が残されていた。

(1) 香港の 2000 年後のカリキュラム改革の政府公文書と教育局の政策方針がまだ大半収集、整理ができなかった現状である。

(2) 校長のカリキュラム意思決定に焦点をあてたが、小学校の「課程統籌主任」を中心とする教育課程発展部会の研究開発活動を研究する時間と余裕はなかった。

(3) さらに、香港教育局の校本課程支援処の支援活動と大学の研究者のカリキュラム開発の指導内容と連携も視野に入れなかった。

本研究では、今までの校本課程の資料の整理と分析をさらに進め、1. 香港の 2000 年後のカリキュラム改革の政策を明らかにする、2. カリキュラム開発の実態を分析する、3. 校内のカリキュラム研究開発組織の実態を解明する、4. 日本のカリキュラム開発へ示唆できることを明らかにするという 4 点をまとめ、カリキュラム研究の進展に貢献したい。

2. 研究の目的

香港は 2000 年以来、OECD の PISA 調査で三分野での三位以内を維持するという好成績を収めた。学校に基礎をおいたカリキュラム開発 SBCD を重視する香港のカリキュラム改革の内容、学校のカリキュラム開発の実態、及び校内の研究開発組織に関する日本の先行研究は、管見の限り皆無に等しい。

本研究の目的は、香港のカリキュラム開発と校内の研究開発組織の実態を解明することである。校本課程開発を香港の教育課程改革の重点項目として掲げるとい背景の下で、香港の校本課程開発が学校でどのように展開されたかの実態に迫るために、本研究が三年間をわたって、三つの角度から考察する。

- 1、カリキュラム改革の政策
- 2、カリキュラム開発の実践場面
- 3、カリキュラム開発の校内組織

最後に論文と本を執筆し、香港のカリキュラム開発の特徴をまとめて、日本に示唆できることを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は理論研究と実践研究が含まれる。理論研究は香港のカリキュラム改革の文献と先行研究を収集し、整理し、考察する。3 年間の研究期間では、まず、文献研究で香港の先行研究と教育局の資料を収集する。資料収集は主にカリキュラム改革の内容、香港の小学校でのカリキュラム開発の内容、カリキュラム開発の校内の研究開発組織の実態に関するものである。

次には二つの小学校のカリキュラム開発の事例分析を進めていく。香港の小学校では「課程統籌主任」という教育課程のリーダー職を設置し、各学習領域で校本課程の教育課程発展部会を設けて、全校の教師の参加を促しているため、最後に「課程統籌主任」を中心とする教育課程発展部会の研究開発活動の実態を考察する。

実践研究は主に、小学校のカリキュラム開発の資料、報告書、評価資料、宿題、学校から児童生徒と保護者に配布された資料、授業準備と会議のプロセスを記録し、分析する。また、校内のカリキュラム開発の授業を記録し、分析する。さらに、カリキュラム開発に深くかかわりを持つ校長、「課程統籌主任」、香港教育局校本課程支援処の人員、香港大学の研究者に半構造化インタビュー調査を実施する。

4. 研究成果

(1) 香港の小学校における学校に基礎をおいたカリキュラム開発 SBCD の政策とカリキュラム開発の現状を明らかにした。

香港の教育局のカリキュラム改革の政策の中で、校本課程開発が始まった時期と目的を解明した。校本課程とは校長がリードし、学校側が社会の変化、実生活の必要性、及び児童生徒のニーズに応じて中央課程を調整して、カリキュラム開発を行うことを明らかにした。

香港のカリキュラム開発の新しい領域「常識科」の内容とカリキュラム開発のプロセスを明らかにした。常識科は科学、科学技術、及び個人社会と人文という三つの領域が含まれ、校本課程開発が活発に行われている。香港では常識科だけではなく、各領域であるいは領域を統合したり、横断したりの形で校本課程開発(SBCD)が行われている。本研究では、常識科の内容とカリキュラム横断の方法を明らかにした。

香港教育局の校本課程開発の支援制度が校本課程開発の前進を後押ししている。また、校本課程開発を支援する行政組織と制度を整備することによって、校本課程開発の急速な進展を図った。本研究では、行政側からのカリキュラム開発とカリキュラ

ム・マネジメントへのサポート体制と組織体制を明らかにした。
(雑誌論文2を参照。)

(2)本研究では、香港のカリキュラム改革の中で、学校に基礎をおいたカリキュラム開発SBCDの特徴を明らかにし、とくに2002年から小学校で「課程統籌主任」というミドルリーダー専門職を設置した経緯と役割を解明した。

本研究では、カリキュラム開発とカリキュラム・マネジメントの推進役としての「課程統籌主任」の職務内容を明らかにした。香港教育局は2001年に小学校では「課程統籌主任」という教育課程のリーダー職を設置し、各学習領域で校本課程の教育課程発展部会を設けて、全校の教師の参与を促すことになった。この職は5年の試行期を経てから常設職に変更した。役割としては学校でカリキュラム開発を推進するために校長に協力し、学校のカリキュラム計画の設定、教授・学習を改善し、評価活動のリーダーである。さらに、他の学校のカリキュラム開発の様子を把握するために、校長とミドルリーダーが他の学校の校外評価に参加していることが明らかになった。
(雑誌論文1を参照。)

(3)香港の学校に基礎をおいたカリキュラム開発 SBCD が成功している要因と要素を分析した。

校本課程発展、教師の専門性向上、学校組織機能の活性化は相互に密接に関わり合い、授業の質に影響し、「学習を学ぶ」という目標を達成するために大きな役割を果たす。香港の校本課程開発の成功理由は中央政府が学校を基礎においた校本課程を開発する資源、空間と時間、及び自主性を与えることである。校本課程は児童生徒が学び方を学ぶことを促進するために、教師が開発主体となってカリキュラムを開発する。学校がカリキュラム開発の正念場となり、校長と教師がカリキュラム開発するプロセスの中で、授業内容と質を向上させている。それは目標、実施、教授内容、教材、評価などが含まれて、教師に校本課程を開発することを通じて、専門性の発展を遂げ、授業の質を向上させ、達成感を味わせる。また、香港は充実した校本課程開発の支援制度と研修プログラムが整備されているため、日本に示唆できる点も解明した。

(雑誌論文1を参照。)

(4)香港のカリキュラム改善を促す学校評価システムと学習評価システムを解明した。

香港の評価システム(学校改善と学習改善を連動する)が整備されて、学校がアカウントビリティを果たしている。特に、児童生徒に対する評価を多様な評価方法で行われ、知識・技能、態度と価値観、情意を評価している。より多くの評価情報を収集し、児童生徒の学習を改善し、支援している。

日本の学校評価ではデータの収集と集計などに多大な労力と資金がかかるという負担の問題がある。本研究の結果は日本のカリキュラム開発とカリキュラム・マネジメントへの示唆は、ITを利用して、教師、保護者、および児童生徒がいつでも入力できる香港の「学校評価システム」のような評価データ集計ツールが必要である。

(図書1を参照)

(5)香港のカリキュラム・マネジメントにおける授業の質的保障の内容を明らかにした。香港の小学校では共同に学習授業案作りと授業準備、同僚の授業評価(教育課程指針2014に明記されているが盛んに行われている。また、教師が反省型実践者になるために校内で学習研究会やサークルをつくって、教師の専門性向上を促進している。他の学校、大学と連携をし、新しい教材、授業方法、カリキュラム開発を行っている。校外では、教育局と大学が多様な研修プログラムが完備されている。さらに、広範囲に他の学校の教師との交流研修会でカリキュラム開発と授業の経験を交流している。このように、香港教育局は多様な方法で学校内と学校外で教師の専門性向上の意識を強化させ、教師の専門性チームの文化を形成させている。

(図書1を参照)

* 本研究の独創性と意義:

学校に基礎をおいたカリキュラム開発 (School-Based Curriculum Development) を重視する香港のカリキュラム改革の内容、学校のカリキュラム開発の実態、及び校内の研究開発組織に関する日本の先行研究は、管見の限り皆無に等しい。その点では、本研究は香港のカリキュラム研究の基礎的な研究になった。発表論文と図書の公開によって、先行研究の蓄積に貢献できた。

また、論文と図書の中では、香港の小学校におけるカリキュラム開発の内容と組織体制の事例研究を挙げながら、日本のカリキュラム開発、カリキュラム・マネジメントに示唆できる点をまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

(1) 野澤有希「香港の小学校における学校に基礎をおいたカリキュラム開発の特徴に関する研究 課程主任の役割に着目して」

上越教育大学研究紀要 = Bulletin of Joetsu University of Education 37(2), 385-394,

2018.

<http://hdl.handle.net/10513/00007436>

(査読なし)

(2).野澤有希 「香港のカリキュラム改革における校本課程開発 (School-Based Curriculum Development) に関する研究 - 常識科の教育内容を手がかりとして - 」 上越教育大学研究紀要 = Bulletin of Joetsu University of Education 36(2), 369-378, 2017.

<http://hdl.handle.net/10513/00007256>

(査読なし)

(3).野澤有希 「カリキュラム改善のためにカリキュラム・マネジメントをどのように実施するかーPDCA サイクルとCIPP サイクルの利用方法を中心にー」 『教育科学 国語教育』 no.806 明治図書,12-15 頁,2017.

(査読なし)

[学会発表] (計 3 件)

(1).野澤有希 平成 28年6月26 日,香港のカリキュラム改革における校本課程開発 (School-Based Curriculum Development) に関する研究,日本比較教育学会第 52 回大会,大阪大学.

(2).野澤有希 平成 28年7月2 日,カリキュラムマネジメントにおける CIPP モデルの応用方法に関する研究 PDCA モデルとCIPP モデルの比較を中心に,日本カリキュラム学会第 27 回大会,香川大学.

(3). 野澤有希 平成 29年6月24 日,香港の小学校における学校に基礎をおいたカリキュラム開発の特徴に関する研究 課程主任の役割に着目して -,日本カリキュラム学会第 28 回大会,岡山大学

[図書] (計 2 件)

1. 原田信之 野澤有希その他 6 名 『カリキュラムマネジメントと授業の質保証』 北大路書房,233 頁2018.

2. 斎藤義雄 倉本哲男 野澤有希『教育課程論 カリキュラム入門 』 大学図書出版,175 頁2018.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

野澤 有希 (Nozawa Yuki)

上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号 : 70749580